

千葉県西部支部長退任の記

私は、2016年6月19日に千葉県西部支部長に就任しましたが、本年6月18日の定時支部総会終結の時を以て退任します。

在任期間は、第1期が4年、第2期が3年の計7年間でした。第2期が通常より1年短縮されていますが、この理由は、これ迄、わが支部の役員改選時期が本部や他の支部の改選時期より1年遅れで実施されてきており、これを改めべく調整を図ったことに因ります。

7年間の在任期間を顧みますと、先ず、第1期は、平時の支部長業務の他に全国校友千葉大会の開催実行委員会(会長)の業務がありました。第2期は、世界規模で蔓延した新型コロナウイルス感染症によるコロナ禍時代への突入がありました。いずれの在任期間も平穩にはほど遠い状況の期間でありました。

第1期の千葉大会の業務はすべてが未経験の業務で、その開催準備は3年を超える長い道のりであり、厳しい体験の連続でした。しかし、今となれば、この体験は、一生の思い出ともなる鮮烈な経験でした。

この大会は、前夜祭を2019年10月5日に浦安市で、記念式典と懇親会を6日に千葉市幕張で、同一県内の西部支部と東部支部の共同開催という形で行われました。しかし、西部支部と東部支部は同一県内とは言え、過去に殆ど交流が無く、また、立地条件や会員分布の違いに基づく運営方法や伝統の差もあり、当初は、誤解や意見の衝突が多く、難しい舵取りを迫られました。しかし、時間の経過と共に、「明治は一つ」、「千葉も一つ」の精神で、双方の歩み寄りや協力が生まれ、天候も台風の到来時期であったが晴天に恵まれ、また、コロナ禍前の開催であったため、特に被害発生もなく、無事成功裏に終了することができました。

しかし、第2期に入ってからは、こうした運の良さは無くなり、コロナ禍時代に突入してしまいました。これまで、我々人間社会には感染

症との戦いを繰り返してきた歴史がありますが、自分の支部長在任中にこうした新種の感染症時代が到来してしまったのは誠に残念なことでした。

コロナ禍は、現在も続いており、校友会活動においては、なお慎重な対応を採らざるを得ない状況にあります。このため、開催中止、規模縮小、リモート併用による変則方式(ハイブリッド方式)の採用等いろいろな工夫がなされております。なお、リモート併用による会議等の運営方法については、一過性の動きと認識すべきものではなく、今や、新しい時代の運営方法の一つとして位置付けられるべきものとなっております。したがって、今後の校友会活動においては、こうした社会環境の変化や情報等に関するインフラ整備の進展にも十分配慮し、その対応を考えていく必要があると思えます。

最後になりましたが、西部支部役員の皆様方、その他の会員の皆様方には、長期にわたり大変なご協力とご支援を賜りました。また、幹事長に人を得て諸々の業務をつつがなく推進することもできました。こうした皆様方のお力添えが無ければ、到底この平穩ならざる在任期間を乗り切ることは出来なかつたものと思っております。心から感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、今後も健康に十分ご留意の上、益々ご活躍くださることを祈っております。

以上をもって、支部長退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

(昭38年商卒 支部長 前田勝己)

三淵嘉子さんが朝ドラのモデルに

2月22日にNHKより令和6年度前期の連続テレビ小説を伊藤沙莉(さいり)が主演する「虎の翼」にすると発表がありました。ネットニュースでその記事を見たときは、最近人気がありドラマやCMによく出ている女優なので、とうとう連ドラの主演になったぐらいにしか思っていませんでした。2月25日にリバイホールで校友会の支部長会。

幹事長合同会議が行われたときの柳谷理事長の話の中で、NHKの連続テレビ小説「虎の翼」のヒロインは、明治大学校友の三淵嘉子(みぶちよしこ)さんがモデルであるとのことでした。

三淵さんが亡くなられたとき、自分は法学部に在学中でしたので、名前だけは知っていました。が詳しい功績は知りませんでした。大変立派な先輩に対し不遜の儀、この場でお詫び致し、略歴を紹介させていただきます。

三淵嘉子さんは、台湾銀行に勤務する父親の赴任地シンガポールで1914年(大正3年)に生まれました。アメリカ合衆国でも仕事をした経験のある父親から幼少期に「これからの女性は男の人と同じように、例えば新聞を読む場合でも政治欄も経済欄も目が通せるような女になることが必要だ」として将来は「医者か弁護士になれ」と言っただけという。この言葉を胸に弁護士になる決意をしたとのこと。

1932年(昭和7年)東京女子師範学校附属高等女学校(現在のお茶の水女子大学附属高等学校)を卒業後、明治大学専門部女子部に入學。

1935年(昭和10年)卒業後、法学部に進学し、1938年に高等文官司法科試験に合格。1940年弁護士を開業する。

1947年(昭和22年)裁判官採用願を司法省に提出するも採用されず、司法省民事部に勤務。

1949年(昭和24年)裁判官(判事補)となり東京地裁民事部に配属。

1952年(昭和27年)名古屋地方裁判所で女性初の判事となる。

1972年(昭和47年)新潟家庭裁判所の所長に就任。女性として初の裁判所長となる。浦和家庭裁判所、横浜家庭裁判所の各所長を歴任後、1979年、退官し弁護士となる。

今回のドラマでは、実在の人物をモデルとしていますが、激動の時代を生き抜いた一人の女性法曹とその仲間たちの波乱万丈の物語として再構成してあるそうです。期待しましょう。

(画像提供:「明治大学史資料センター」所蔵)

(昭62年法卒 幹事長 武士田卓志)



船橋地域支部

船橋地域支部長を拝命して

校友会西部支部の皆さま、この度船橋地域支部の支部長を仰せつかりました糸井大恵（だいえい）と申します。「だいえい」とはなかなか読んでいただけなく、「たえい」「ひろえ」「だいいけい」と名宛とされた女性・男性それぞれの用品等の郵便物が送られてきています。



名前の由来は、私の誕生日が七福神の恵比寿（えびす）様が一年の稼ぎを持つて帰る日らしく、大黒天（だいくてん）様の一字と恵比寿様の一字をいただき、「広く大きな恵みを与える人間」になるようにと祖父がつけたそうです。

縁あって皆さまの仲間に加えていただき、2005年創設の船橋地域支部の支部長を高橋支部長のあとを受け、お引き受けすることとなりました。

私は昭和55年（1980年）商学部商学科卒業、現在は社内の人材育成関係の研修を担当しています。4年前の2月に脳梗塞となり身体の後遺障害はありますが、リハビリを継続しながら社会生活を送っています。

校友会活動との関わりは、校友会全国大会や千葉県西部支部総会への出席の際に、船橋地域支部が創設されることを伺い、それ以来となります。船橋地域支部では堀越初代支部長をはじめ、溝渕先輩、穴澤先輩など歴代の支部長・幹事長の皆さま、前田千葉県西部支部長に高橋現支部長、他の会員の皆さまと共に全国大会や支部総会に参加し、

マンドリンチャリティコンサートを開催することもできました。千葉県西部支部では、東西支部で共催した全国校友千葉大会で武士田西部支部幹事長にはお世話になり、また、歴代の各支部長様方にも親しくお付き合いしていただきました。



今後は自分の名前のように校友会活動へ少しでも「大きな恵みを与える」ことができるよう精進していきますので、ご指導・ご教導・ご協力をお願い申し上げます。

（昭55年商卒 糸井大恵）

松戸地域支部

コロナ禍に御役目を果たして？

日本人の心に春の躍動を告げる桜が満開となった3月26日（日）、生憎の冷たい雨の中ではあったが、4年ぶりに開催された『国分川桜まつり』に、明治大学の紫紺旗がはためきました。

思えば3年半前、前支部長の任期途中での突然の辞任に伴い引き受けることになった明治大学



校友会松戸地域支部長として、コロナ禍に翻弄された末の任期最後の時期になって初めて、校友会のPRを兼ねた会員拡大策の一案として企画した桜まつりへの参加が実現した瞬間でした。就任早々の令和2年、久し振りに母

校での新年会を企画するも、誰にも予測できなかった新型コロナウイルス感染症パンデミックに直前での中止決定を余儀なくされ、ほどなく緊急事態宣言が発せられ、以降皆様ご周知の未曾有の事態を迎えることになりました。何より対面での交流を中心とした全国の校友会活動も、3年連続しての全国校友大会中止に代表される困難な状況となりました。

このような状況下ではありましたが、感染に十二分に配慮して、昨令和4年11月27日、新たな試みとして『特別講演会』（幸せ人生街道のための株式投資と資産形成）をセットした第25回支部総会を開催し、任期満了に伴い田居照康支部長並びに土屋成美幹事長を新たに選任、同時に支部の円滑な継続運営を図るため、中山高春支部長の名誉支部長委嘱と後藤優幹事長の副支部長選任が決議され、コロナ後の校友会活動の船出を後方支援する体制としたことをご報告申し上げます。

コロナ禍にもかかわらずご支援・ご協力戴いた会員諸兄に感謝申し上げますと共に、言わずもがな成人を過ぎた当地域支部においても、他支部同様、若手・女性の新規会員獲得や会員の高齢化など、様々な問題が横たわり、簡単には解決できそうもありませんが、松戸の校友が『ONE TEAM』となつて、明治大学を象徴する合言葉『前へ！』の精神を持ち、支部活動の更なる充実と発展を期して参りますので、従来にも増してご支援・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

（昭46年商卒 中山高春）

流山地域支部

静寂から躍動への転換点

2022年度の流山地域支部は、まさに過渡期であったように思います。コロナの影響により、数年間実質的な支部の活動を行うことができない焦りもある中、会員の高齢化も進み、その結果として会員数の減少が目立ち始めていました。支部の定例役員会もコロナ感染を警戒しながらの菊池幹事長による緻密で制約的な開催を行ってきましたが、ワクチン接種回数や接種率が上がってきて

いる状況を勘案して、開催可能なイベントを模索してきました。

10月29日には、初めての企画である「バーベキュー大会」を市の総合運動公園内で開催することにになりました。広いスペースでのバーベキューは久々のイベントとして、参加してくれた校友たちと楽しい時間を共有する事ができ、次年度以降も継続したい企



画の一つとなつて、校友会活動に一筋の光が見えてきました。

12月の第一日曜日は、みなさんが楽しみにしている対抗戦ラグビー明早戦です。広井支部長の尽力によりチケットを確保し、17名で国立競技場へ応援に行きました。明大勝利での歓喜に沸いた一戦でしたが、例年その後開催していた忘年会は自粛を継続することとなりました。また10日の土曜日には、我孫子支部主導の4支部（我孫子・柏・流山・浦安）合同の麻雀大会が開催され、流山からも8名の有志が参加しました。成績は振るわず次回への意気込みだけを持ち帰りましたが、新規参加者が増えたことは評価できます。

支部活動が少しずつ動き始めた頃、大黒柱である菊池幹事長が体調を崩され、支部の役員及び担務の見直しを行うことを余儀なくされる事態となりました。広井支部長を中心に急遽役員編成を行い、次の総会での幹事長就任を前提に、私が幹事長代行として支部の運営推進を行うことになりました。ただ、幹事長を受けるにあたって、他の役員からのサポートについて話し合つたことは、今後の執行体制強化に役立たせることができたと感じています。

3月3日には4年間開催が見送られてきた3支部（我孫子・柏・流山）合同のゴルフコンペを、これまでとは開催場所を変え、低価格（プレー費と参加費）志向へとリニューアルして、流山支部主導により霞ヶ浦カントリー倶楽部にて開催することができました。新規の参加者と明大女子の参加をも得ることができ、大いに盛り上がったコン

べとなりました。

この1年の流山地域支部は、静寂から躍動への転換点であったようです。

（昭49年文卒 川根正教）



我孫子地域支部

我孫子地域支部の一年

我孫子地域支部の令和4年度の活動は、懇親ゴルフコンペを年4回、他支部と協働の麻雀大会を年2回開催し、その他の会議等は4月22日（日）に第22回総会を開催し、役員会は5回開催し、他に納涼会と新年会を開催し、各20名の参加がありました。

しかし、予定していた日帰りバス旅行は直前に中止になり、全国校友千葉大会開催に伴い、延期していた「明治

大学マンドリン倶楽部チャリティ演奏会の準備会も残念ながら中止になりました。従って当分の間、演奏会は延期です。

千葉県西部支部の他地域支部も同様に思います。コロナ禍にあつて、会員同士が集まらず、会員同士が顔をつきあわせて、会合を頻繁に開くのは、様々な抑制があつて、十分にできません。もうじきコロナの扱いが2類から5類に変更になりますので、我孫子地域支部の令和5年度は、4月30日（日）午後2時20分開催の第23回総会を皮切りに懇親ゴルフコンペを年4回、他支部と協働の麻雀大会を年2回開催し、その他に納涼会・新年会、日帰りバス旅行を計画し、我孫子市主催の祭りへの参加、新規会員増強活動と会員同士のイベントの充実を図って参ります。

（昭47年政経卒 佐藤雅英）

市川地域支部

ようやく再開できた地域支部活動

この2年半ほど、殆どの地域支部活動ができずに、忸怩たる思いでしたが、新型コロナウイルスもやや落ち着いてきて、ようやくイベントを再開できるよ

うになりました。令和4年度の総会は中止となりましたが、11月3日「いわちかわ市民まつり」が3年ぶりに野外開催され、市川地域支部も参加して、明治大学のPRとグッズ販売、校友会会員募集を行いました。12月3日にはハイキング同好会の主催で明治大学の創設者の一人、初代校長を務められた岸本

辰雄先生の墓碑のある東京都谷中霊園を訪れ、墓参いたしました。9時JR市川駅に参加8名が集合、日暮里駅より谷中霊園へ、約10分ほどで墓碑へ。墓碑は江戸最後の将軍15代徳川慶喜公の墓所の近くにあり、他にも多くの著名な方が埋葬されており、中央園路「さくら通り」は、ソメイヨシノの老木の並木で、花見スポットとしても有名です。お花とお線香をお供えしてお参りし墓前で記念撮影。帰りは御茶ノ水で昼食、明治大学現代漫画図書館（米沢嘉博記念図書館）を見学して終了、解散しました。



翌週10日は市川地域支部の役員忘年会を山崎製パン企業年金基金会館3階陽光の間で開催しました。忘年会は市川清名誉支部長がご家庭の事情により市川を離れて大阪へ移られる事になり、送別会を兼ねて記念撮影並びに佐川清前支部長へ花束を贈呈しました。

令和5年2月5日には、これも3年ぶりの市川地域支部新年会を開催しました。例年よりは少ない参加人数となりましたが、それでも51名も在校友が本八幡うえだ別館に参集して懇親を深めました。



新型コロナウイルス禍のせいもあって、会員数の減少傾向の中で、これまで以上に若手会員の加入に向けて活動していく必要があることを痛感しています。

(追記) 本年2月に大阪へ転居された本支部の佐川清名誉支部長ですが、3月20日に逝去されました。突然の訃報を知り市川地域支部役員一同悲しみでいっぱいです。謹んでご冥福をお祈りいたします。(昭47年政経卒 明村澄雄)

浦安地域支部

さあ、みんなで集まりましょう

さあ、気分を変えていきましよう。コロナはもう終わったと思っていいいのではないかと思っています。浦安地域支部では2023年1月に新年会を実施、そのころはまだマスク必携でしたが、オリエンタルホテル東京ベイの2階、チャイニーズテーブルで行いました。参加者の皆さんの写真をお届けします。



また、3月26日(日)には浦安警察署の隣の美浜公園で花見を予定してい



たのですが、天気予報が雨天、さらに本日に雨天だったので中止となりました。浦安市は桜の名所と言ってもいい所が多く、コロナ禍の時期を除き、毎年のように花見を行っていました。10年くらい前ですが、私(服部)がキリンビールの「明治のラガー」「大正のラガー」

(明治時代、大正時代の作り方で作ったラガービール)を準備し、参加者に配付したのを思い出しました。電気冷蔵庫がさほど普及していなかった時代のビールですので宴会用にもってこないのですが、終売になりました。私としては「大正」の方が「明治」よりも良かったのが、ちよつと気になりましたが、改良が進んだのだらうと思えば、当然かとも思います。今年には役員の変更があります。総会への積極的な参加をお願いします。(昭63年政経卒 服部真樹)

柏地域支部

柏地域支部の取組

今年、柏地域支部は創立20周年を迎えます。20年前の平成15年、校友会本部の組織改編が行われ、各地に多くの支部・地域支部が創られたとき、柏地域支部もその一つとして創設



されました。具体的には当時の千葉県西部支部長で一足先に我孫子地域支部を創設された三宅支部長から、柏在住の校友(猪瀬・宇都宮・萩原氏など)に対し、柏にも地域支部を結成してほしいという要請があり、これに応えて設立されました。20年という年月を経て、設立に携わられた先輩方の多くはご逝去されましたが、地域支部としての組織や設立時の精神はいまも引き継がれていると自負しています。

設立当初は年一回の総会・懇親会を行うのみでしたが、しだいに校友会としての活動も活発になりました。今まで、新春の集い(新年会)、お花見会、麻雀大会、ゴルフ大会、梨狩り大会、タウンウォーク、ハイキング、ラグビー観戦、詩吟、当会会員が出演するイベントの観賞(講談、合唱)などを企画しました。中でも好評だったのは家族が参加できる梨狩り大会でした。



このほか、我孫子・流山地域支部と共同で何回かマンドリン倶楽部演奏会を開催しました。この企画は大盛況で地域の皆さんに喜んでいただけました。が、素人スタッフで大規模なイベントをまとめるのは結構大変でした。

また、柏地域支部では平成19年より会報誌「はくめい(柏明)」を発行しています。会報誌は会員に校友会の活動を報告すること、これから行われるイベントの通知を目的として作成され、おかげさまで創刊後一度も休むことなく年2回の発行を続け、今年の正月に31号を発行することが出来ました。会報誌は会員勧誘の際、活動内容の説明に有効で、さらに校友会活動の保存記録としても役だっています。

しかしながら柏地域支部は現在、会員数は漸減、会員年齢は上昇傾向にあります。校友は毎年増えているのに若い会員の入会はずかす、地域支部会員と地域在住の明大OBの平均年齢の差には大きな隔たりがあります。校友会地域支部は地域在住の校友全体を対象にするべきで、高齢者だけをターゲットにする組織ではありません。地域支部が今後20年、30年と活動を続けるためには就活・婚活・育活・キャリアアップなど若い世代が関心をもちそうな話題にも取り組んでいく必要があると思います。

(昭53年工卒 山田秋彦)



第二十回 千葉県西部支部総会 ・懇親会のお知らせ

◇日時 令和5年6月18日(日)午後1時～
◇会場 ハート柏迎賓館

JR常磐線・東武野田線「柏駅」下車
タクシー乗車10分
送迎バス(柏駅東口デツキ下
ロータリー「企業バス乗降場」)

◇会費 七千円(懇親会)

通信のデジタル化は乗り心地良い波

会員間の連絡や意思疎通において、手紙はとて味のある上品な手段だと思つています。しかし、デジタル化の波が明大校友会にも迫つてきます。国政においてもその潮流は加速している昨今です。

会員の皆様への意思疎通はこれまで手紙が主流でしたが、これには問題点があります。まずは費用がかかるということ(郵便代、印刷代、紙代等)、そして往復の意思疎通ができるまでに時間がかかること、発送の手間(封入、切手貼り、投函等)などです。

そのような中、eメールやライン、その他デジタルの通信手段は費用がかからず、瞬時の意思疎通ができ、手間も最低限であります。

校友会の諸先輩など多くのデジタルツールの利用が苦手な方がいらっしゃることは認識してはいます。従来からの通信方法を基本の通信手段としながらも、将来的な会員間の連絡体制を少しずつ整備していく必要があります。また、デジタルが不得手な方へのサポートも必要です。

そう言っている私も文系族でデジタルは不得手な輩なのですが、このデジタル通信の波に一度乗ってしまおうと、なんとも心地よく快適に情報の共有ができるようになりまして。

現在、会員情報の氏名や住所の他にeメールアドレスや携帯電話番号などを、コツコツと集める動きをしています。当然ながら、個人情報保護は大切に扱うこととして、校友会会員各位にご理解をいただきたいながら、少しずつ進めていきたいと思つています。
(昭54年法卒 佐藤雅昭)

明大ラグビー部監督北島先生の教え

先日、ラグビー部の神鳥監督と伊藤ヘッドコーチと吉田と僕の同期4人で再会を果たした。一瞬で大学時代に帰り、相変わらずのバカ話で盛り上がる。すると監督の神鳥が、テレビマンになった僕の制作番組について話し始めた。
「そや！この間放送されたNHKのアントニオ猪木の番組！お前が作ったんやろ？泣いたわあ」
ラグビーを続け、後進の指導にあたる仲間の言葉は無性に嬉しかった。



「広告代理店やテレビ局に就職している明治の先輩に助けられて、なんとかやってるよ」と答える僕に、神鳥監督が昔の話を始めた。
「ケンゾー。北島先生がよく俺たちレギュラー陣に『今、3、4、5、6軍で頑張ってる奴らを大事にしろ』って言われたの覚えてるか」
僕はこれを覚えていた。確かに北島先生は僕らレギュラー陣に、口酸っぱくこの話をした。

「一軍のお前らは、社会に出たら必ず彼らに頭を下げる日が来るからな」って、あれ本当だよ。ありがたいよ、マジで」
当時は気にも留めなかったが、今になると心に響く。社会に出ると当時は試合に出られなかった先輩後輩が、社会で活躍し、僕らを支えてくれている。神鳥監督は、この話を今も部員にしている。学生達へ伝えることが、北島先生への恩返しになると彼は言う。

人を大切にすることの尊さに、いつか気づく時が来る。50歳を目前にして明大ラグビー部に支えられている。名実ともに監督になった仲間を、逞しく、誇らしく思う。
今年度、目指すは優勝だ。
(平10年政経卒 元ラグビー日本代表 鈴木健三)



第二十六回「ホームカミングデー」のお知らせ

開催日 令和5年10月22日(日)
会場 明治大学駿河台キャンパス全域
(リバーテイルタワー、アカデミーコモン、グローバルフロント)

千葉県西部支部ではホームページを運営しています

千葉県西部支部のホームページでは、支部総会を始めとして、全国校友大会、各地域支部のイベント、ホームカミングデーやスポーツの話題などを掲載しており、会員の皆様とのコミュニケーションを深めるために運営しております。



【ホームページの閲覧方法について】

マイクロソフト・エッジなどのウェブブラウザのアドレスバー(現在閲覧中のウェブページのアドレスが表示されている場所)に、下記のURL(閲覧したいホームページなどの宛先アドレスのことです。)を入力してエンターキーを押して下さい。

URL <https://chibakoyu.dip.wjg.jp/>

各地域支部の総会・懇親会

| | | |
|------|--------|----------------|
| ☆我孫子 | 4月30日 | けやきプラザ |
| ☆市川 | 5月14日 | 山崎製パン企業年金基金会館 |
| ☆浦安 | 5月20日 | 浦安ブライトンホテル東京ベイ |
| ☆柏 | 5月21日 | ハート柏迎賓館 |
| ☆船橋 | 5月28日 | 山崎製パン企業年金基金会館 |
| ☆流山 | 6月3日 | 徳樹庵 流山おおたかの森店 |
| ☆松戸 | 11月12日 | 聖徳大学10号館 |

編集後記

今回は校友会の全国大会とホームカミングデーを第1面にしました。出席したことはない方は「何だろう?」どんなものだろう?というのが感想だと思つていますが、そこは「明治大学」という同じアイデンティティを持つ者同士、打ち解けるのも早いと思います。毎回ご参加の方も未経験の方も、ご自身のアイデンティティを確認するつもりでご参加を。
(服部)

編集委員

- 服部 真樹 (編集長・浦安)
- 土屋 成美 (松戸)
- 佐藤 雅英 (我孫子)
- 山田 秋彦 (柏)
- 山崎とよ子 (船橋)
- 明村 澄雄 (市川)
- 佐藤 雅昭 (流山)
- 武士田卓志 (幹事長)